

ゴルフサミット会議 / Golf Summit Conference

「ゴルフサミット会議」2001年共同アピールと提言

『ゴルフをみんなのスポーツへ』

ゴルフの新しい100年が始まる

〈提言〉

1. ゴルフ場利用税の撤廃をめざす。
2. エチケットとルールの周知徹底をはかる。
3. 健全なジュニア育成はゴルフ界の責務である。
4. ゴルフを通じてみどり豊かな国土を育む。
5. プレイ環境を整備しゴルフの活性化をはかる。

提言1. ゴルフ場利用税の撤廃をめざす。

ゴルフは、今や広く国民スポーツとして普及定着し、国民の健康増進に大きく寄与しております。平成11年度におけるゴルフ利用者数は9,300万人を超え、ゴルファーが納めたゴルフ場利用税は総額876億円となっています。

近年、所得水準の向上、余暇時間の増大、個人の価値観の多様化に伴って、なかでもゴルフは世論調査の結果によると「今後行いたい運動・スポーツ種目」の中で第3位を占め、ゴルフ人口は1,160万名に達しています。またゴルフ場来場者の、その6割以上は年収700万円未満であり、ゴルフはもはや特段の担税力のある人のスポーツとは言えなくなっております。

にもかかわらず、ゴルフをプレイする際に、現在、消費税の他にゴルフ場利用税が課せられるという二重課税となっており、ゴルフ場利用者の本税に対する重税感・不公平感が高まっています。このためわが国におけるゴルフの更なる普及・振興による生涯スポーツのいっそうの振興を図るため、ゴルフ場利用税の廃止を求めるものであります。

ゴルフサミット会議の2000年(平成12年)の最重要活動方針であった「ゴルフ場利用税廃止運動は、1999年に引き続いて6月15日より9月15日までの3カ月間、全国のゴルフ場、ゴルフ練習場などでゴルフ界挙げて廃止運動を展開し、署名者数は1,902,919名で、1998年から3年間の署名者数は累計で5,528,468名となりました。

このゴルファーの貴重な声をもとに、関係各省庁、国会議員に対してゴルフ各団体は一致団結して、ゴルフ場利用税の廃止を求める陳情活動を強力に行ってまいりました。その結果、文部省(現・文部科学省)は「現行の地方財政状況に配慮し、平成13年においては3割の軽減を要望する」ことを省議決定し、要望書を提出いたしましたが、昨年末の自民党税制調査会において、残念ながら「見送り」となりました。

しかし、ゴルフサミット会議としては、本年も継続して「ゴルフ場利用税の廃止実現」に向け、この運動を推進していく決意を新たにしております。

提言2．エチケットとルールの周知徹底をはかる。

「ゴルフ規則」は「エチケット」に始まり、「用語の定義」「プレイについての規則」と三章に分かれています。エチケットを最優先させるところに、ゴルフの大きな特徴があります。

- (1) 切り取ったターフ(芝)は必ず元に戻し、手で平らにならす。
- (2) バンカーの跡をならす。
- (3) グリーンのボールマークをならす。

英国の子ども達はゴルフを始めると、まずこの三つのエチケットを徹底的にたたき込まれるそうです。「たつ鳥跡を濁さず」がエチケットの基本だからです。

日本のゴルフ場も、経営の合理化にともなってキャディがいなくなり、セルフでプレイする時代が変わろうとしています。そうすると自分で切り取った芝を戻したり、バンカーをならしたりすることはますます重要になります。打った跡を放置すればコースが荒れるのでゴルフが楽しめません。またスコアも悪くなります。ゴルファーがエチケットを守らなかったらコースの状態をよくするための人手が必要となり、余分な経費がかかります。コースをよくし、ゴルフを安く楽しむためにもエチケットを守ることは大事です。

公式競技の場合はレフェリー(委員)が付くこともありますが、他のスポーツのようにプレイの進行に関与するわけではありません。ゴルフはレフェリーが口を出すのはルール上の問題が起きたときだけです。ひとつのスタジアムで行われるスポーツと違って、ゴルフは広大なコースに大勢のプレイヤーが散らばってプレイするので、レフェリーを付けることは現実問題として無理です。

ゴルフはお互いがマーカーとなり、自己申告によって行われる競技ですから、プレイヤー自身がルールを知っていなければ本当は成り立たないスポーツです。キャディバッグにルールブックを入れて持ち歩いている人は、果たしてどのくらいいるでしょう。ルールブックをそばにおいて、常に目をとおす習慣を付けたいものです。

エチケットを守り、ルールを学ぶことは技術の向上以上に大切です。

提言3．健全なジュニア育成はゴルフ界の責務である。

どのスポーツにおいてもジュニア時代の経験がないと、そのスポーツとは無縁になります。ゴルフだけが例外でした。日本のゴルファーの大部分が大人になってからゴルフを始めた人たちです。しかし、ゴルファーの高齢化と長引く景気の停滞により、大人のゴルファーが減りはじめています。ゴルフ人口を増やすために、ジュニア育成活動が必要です。

国民体育大会にゴルフが正式種目として採用されました。ゴルフ部がある高校は296校になりました。しかし、選手不足で国体に選手をおくれない県があります。サッカーや野球は全国大会に出場する高校が4,000校を超えます。競技ゴルフを盛んにするために、ジュニア育成活動が必要です。

丸山茂樹選手がアメリカのトーナメントで活躍しています。片山晋呉選手が日本の賞金王を獲得しました。そして、タイガー・ウッズ選手が圧倒的な強さを発揮しました。いずれもジュニア時代からゴルフを始めた選手です。世界に通用する選手を育てるために、ジュニア育成活動が必要です。

(社)日本ゴルフトーナメント振興協会の調査によると、アンケートに回答を寄せたゴ

ゴルフ場の58.6%が、ゴルフ練習場の71.7%が何らかの形でジュニア育成活動を実施しています（有効回答率9.98%10.11%）。日本のゴルフ界全体がジュニア育成活動への関心を高めています。ジュニア育成のための環境は整備され始めています。今や、行動あるのみです。

「ゴルフはそれ自体が一つの教育であり、しかも最高の価値を持った教育である」（アンドルー・ベル博士）という言葉があります。ゴルフは精神的にも、肉体的にも、技術的にも、戦略的にも子供達を鍛えるすばらしいスポーツです。マナーとルールを守る社会性に富んだ子供を育てます。ゴルフによって教育を受けた健全な子供達に、ゴルフの新しい100年を託したいものです。

提言4．ゴルフを通じてみどり豊かな国土を育む。

20世紀はめざましい経済発展を遂げる一方、環境破壊が進んだ世紀でもありました。大気・水質の汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊等々、21世紀の私たちが解決しなければならぬ宿題が今、山積みです。その有効な解決の一手段として、近年、世界的に関心が高まっている樹木による緑化があることはご承知の通りです。ゴルフ団体の一員である（社）ゴルファーの緑化促進協会（GGG）は昭和51年に環境庁（現・環境省）の許可により創立され、日本ゴルフ100年祭の今年、創立25周年を迎えます。これを記念しGGGはゴルフ発祥の地・神戸では「小学校の校庭の芝生化」、世界自然遺産・屋久島では絶滅の危機にある樹木の救済、さらに名勝・松島の「松を守る活動」などの支援を計画しています。

また、全国のゴルファー・ゴルフ場、協賛企業などからいただいた大切な緑化協力金により、全国の6,000カ所を超える学校・公園・河川・福祉施設などの社会公共施設にこれまで160万本の植樹を実施する一方、松くい虫防除対策、都市の防災植樹、地球温暖化対策などの環境保全事業を推進してまいりました。

ゴルフ場は都市近郊の貴重な緑地として、非常災害時や環境保全をはじめ地域社会との共生に積極的な役割を果たすことが期待されています。ゴルフ界としてもこのような時代の要請を受け、ゴルファー・ゴルフ場の緑化活動の輪をさらに拡げることにより次の世界にみどり豊かな国土を残すための手助けをしたいと考えております。

提言5．プレイ環境を整備しゴルフの活性化をはかる。

近年、ゴルフが国民スポーツとして普及・発展したにもかかわらず、長引く不況により一般ゴルファーのプレイ頻度が年々減少しております。平成11年度の1ゴルフ場当たりの平均入場者数（38,500人）は、ちょうど20年前（昭和55年度）と同じ数に低下しています〔ゴルフ場利用税・納税調査〕。

この原因は、諸々の複合的要素が存在すると考えられますが、一般ゴルファーのプレイ意欲の衰退も原因の一つにあげられます。これを打破するためには、業界全体が一丸となって活性化に取り組むことが急務であります。

活性化は、プレイ意欲の向上であります。そのためには、まずゴルフ場におけるプレイ環境の整備をはかる必要があります。エントリーの方式、プレイ料金の見直し、クラブハウスの利用拡大など種々の課題に取り組み、一人でも多くのゴルファーのプレイしやすい

環境づくりが強く求められています。しかし、これらの課題は多種多様のアプローチがあり、2,400カ所を超える個々のゴルフ場にとって、一様ではありません。

ゴルファーニーズの多様化も今後さらに進化し、対応も難しさを増すと考えられますが、時代の大きな変化に即応し21世紀のゴルフ界が健全に発展するため、英知の結集が必要です。

日本のゴルフ100年祭を契機に、もっとゴルフが楽しめるような環境整備の業界運動を推進します。

Common Slogan and Shared Objectives for the Year 2001

Slogan: "Golf - A Sport for Everyone"

- Start of a new century of Japanese golf -

Objectives:

- (1) Abolish golf course use tax**
- (2) Promote observation of etiquette and rules**
- (3) Remind the golf community of its duty to promote the development of junior players**
- (4) Promote creation of more green spaces**
- (5) Improve the golfing environment and revitalize golf**

1. Abolish golf course use tax

Golf has now gained a firm foothold throughout Japan as a national sport, contributing greatly to improving people's health. In fiscal 1999, more than 93 million people used golf courses, paying a total of ¥87.6 billion in golf course use tax.

Along with an increase in income levels and leisure time, as well as diversification in people's sense of values, golf took third place among the "exercises and sports I would like to practice in the future" in a recent opinion poll. The golf-playing population has now reached 11.6 million, of whom more than 60% have an annual income of less than ¥7 million. These figures show that golf is no longer a sport only for those in the upper income bracket.

In spite of this, golfers in Japan are burdened with double taxation: in addition to consumption tax, they also have to pay the "golf course use tax". There is an increasing feeling among golfers that this tax is excessive and unfair. In order to popularize and promote golf, which is a lifetime sport, we believe that the golf course use tax should be abolished.

The "campaign for the abolition of the golf course use tax" was the most important project of the Golf Summit Conference in the year 2000. As in 1999, the golf industry's vigorous campaign to collect signatures demanding abolition of the golf course use tax was conducted for the three month period from June 15 to September 15 at golf courses and driving ranges throughout Japan. Signatures collected totaled 1,902,919, and the aggregate for the three years from 1998 to 2000 was 5,528,468.

Based on these unequivocal voices of golfers, the member organizations made a strong, united petition to the ministries and agencies concerned, as well as to Diet members, to abolish the golf course use tax. As a result, the Education Ministry decided at the departmental council to submit "a request for a 30% reduction of the tax in fiscal 2001 in view of the current local financial situation". Unfortunately, however, the request was shelved at the LDP's Tax Commission at the end of 1999.

The Golf Summit Conference has made a fresh resolution to continue the campaign this

year until abolition of the golf course use tax has been achieved.

2. Promote observation of etiquette and manners

"The Rules of Golf" consists of three chapters: "Etiquette", "Definition of Terms" and "Playing by the Rules". Thus, the highest priority in golf is given to etiquette.

(1) Players should replace portions of fairway turf dislodged in play and smooth them down with hands

(2) Players should smooth over marks they make in sand bankers

(3) Players should repair pitch-marks on greens

In Britain, apparently, these three precepts are hammered into children's heads when they start learning golf. The underlying principle is that "Bird does not foul its own nest".

With the rationalization of golf course operation, caddies are disappearing from Japanese courses, too, and the age of unassisted play is arriving. This makes it even more necessary for you to replace pieces of fairway turf you dislodged in play and to smooth over marks you make in bankers. If you fail to tidy up after you in this way, the course will deteriorate, your round will be less enjoyable, and you will finish with a worse score. Failure to observe etiquette will also result in increased costs, because extra staff will have to be hired to maintain the course. If etiquette is observed, on the other hand, it will keep the course in good condition and enable you to enjoy playing golf at reasonable cost.

Some formal tournaments or competitions are attended by an arbiter (committee member). Unlike other sports, however, an arbiter in golf does not concern himself with the proceedings of a game and only interrupts play in case of a problem relating to rules. Unlike most other sports, golf is played not in a stadium but by many players scattered over a large area, which means that the task of judging the game is completely different.

Golf is a "self-assessment" game in which you are your own referee. For this reason, every player of the game must have a good understanding of the rules.

How many people carry a rule book in their caddie bag? Golfers should develop the habit of always having a rule book on hand and referring to it whenever the need arises. Observation of etiquette and an understanding of rules are more important than improving one's technique.

3. Remind the golf community of its duty to promote the development of junior players

It is true of any sport that unless you start playing it at a young age, you will never develop a great interest in it. In Japan, golf has been an exception to this rule. Most Japanese golfers started playing golf as adults. Due to aging and the prolonged economic stagnation, adult golfers are now on the decrease. In order to increase the playing population, therefore, we must take measures to encourage junior players. Golf has been formally adopted as an item of the National Athletic Meeting. The

number of senior high schools that have a golf club has now reached 296. However, some prefectures are unable to send golf teams to the National Athletic Meeting because there are not enough players, whereas in the case of soccer and baseball, more than 4000 senior high schools participate in national competitions. In order to develop golf as an organized sport, we have to take measures to promote the development of junior players.

Shigeki Maruyama is doing well in the U.S. tournaments. Shingo Katayama has become the prize money king of Japan. Tiger Woods continues to display his overwhelming strength. All of these began playing golf in their early youth. In order to produce golfers who can compete on the world stage, we have to find ways of promoting the development of junior players.

According to a survey conducted by the Japan Golf Tournament Promotion Association, 58.6% of the golf courses and 71.7% of the driving ranges that responded to the questionnaire said that they are taking measures of some kind or other to encourage junior players (valid response rates being 9.98% and 10.11%, respectively). We can see that the entire Japanese golf community is taking a growing interest in the encouragement of junior players, and that the environment for promoting this objective is improving. All we need is action.

"Golf is an education in itself and an education of the highest value." (Dr. Andrew Bell). Golf is a great sport suited to promote children's mental, physical, technical and strategic abilities. It helps to build a socially well-adapted character that observes etiquette and rules. We wish to place golf's next 100 years in the hands of young people who have acquired sound minds and bodies through golf.

4. Promote creation of more green spaces

The 20th century has witnessed remarkable economic development and, at the same time, increasing environmental disruption. There are innumerable problems to be solved in the 21st century, including air and water pollution, global warming, and destruction of the ozone layer. As you are aware, people worldwide are now taking an ever-greater interest in greening as an effective solution to these problems. The Greening by Golfers Group (GGG), a member of the Golf Summit Conference, was established in 1976 with the approval of the Environment Agency. This year is its 25th anniversary, as well as being the centennial anniversary of Japanese golf. To mark the occasion, the GGG is planning projects such as: (1) providing turf for school playgrounds in Kobe, the birthplace of golf in Japan, (2) saving endangered species in Yakushima Island, a registered World Natural Heritage site, and (3) preserving pine trees in Matsushima, one of Japan's three best-known scenic spots.

Furthermore, thanks to donations received from golfers, golf courses and co-sponsoring companies in all parts of the country who support the greening campaign, a total of 1.6 million trees have been planted in public facilities such as schools, parks, riverside areas and welfare facilities. We have also been contributing to environmental

conservation through control of pine weevils, planting trees in urban areas as anti-disaster measures and combating global warming.

As green spaces in suburban areas, golf courses today are expected to play a positive role for the community at times of disasters and in the context of environmental conservation. Responding to the needs of the time, the golf industry wishes to serve the cause of passing on to the next generation a country covered with rich green, and we will work toward this goal in 2001 through promotion of the greening campaign among golfers and at golf courses.

5. Improve the playing environment and reactivate golf

Golf is now recognized as one of Japan's national sports. However, due to the current prolonged recession, the frequency of playing among ordinary golfers has been decreasing every year. The average number of visitors per course in fiscal 1999 - 38,500 - has fallen back to the level of 20 years ago (source: Investigation into payment of the golf course use tax).

Although the causes of the decline are complex, a major factor seems to be a fall-off in enthusiasm on the part of ordinary golfers. In order to reverse this trend, there is an urgent need for the industry to make a concerted effort to revitalize golf.

This means restoring golfers' enthusiasm for the game, and if this is to be achieved, the first step is to improve the environment of golf courses. Club entry procedures, playing fees and the use of club houses - these are just some of the matters that need to be reviewed in order to offer an improved playing environment to as many golfers as possible.

Various different approaches to these problems are possible, particularly in view of the fact that more than 2,400 golf courses exist in Japan.

As golfers' requirements are expected to diversify still further in the coming decades, it will become increasingly difficult to meet them. In order for the golf industry to respond quickly to the far-reaching changes of the time and develop sound policies for the 21st century, it needs to combine the wisdom of all parties concerned.

Taking the opportunity of the 100th anniversary of golf in Japan, the golf industry will do all in its power to promote the campaign for an improved golfing environment and greater enjoyment of golf.